

## 「盛岡・秋田支社における乗務員基地再編の概要」

### 提案時における地本一支社間の議論内容について（その1）

（青森運輸区がこの間になってきた役割について）

- ・北海道と本州を繋ぐ玄関口、JR 東日本と JR 北海道の玄関口であり、北東北の輸送と冬期輸送を担ってもらった。
- ・乗務員区なので、列車運行に伴う使命は変わらないが、輸送体系の観点から廃止する。

（実施時期における詳細提案時期について）

- ・12月頃のイメージ。その時に3月の何日か実施時期を示す。

（乗務員基地再編に伴う担当列車の見直し）

- ・奥羽本線及び津軽線は、運転士・車掌共に秋田支社。津軽線は弘前運輸区。

（青い森鉄道青森・野辺地間の大湊線直通列車について）

- ・八戸運輸区が担当。快速「しもきた」の2本、1往復となる。

（青森運輸区廃止に伴う異動について）

- ・職場が無くなるので、どこかしらに転勤。また、行路移管が支社またぎで発生することから需給調整による支社またぎの異動は考えられる。
- ・秋田支社の職場に転勤となれば、秋田支社所属となる。
- ・弘前運輸区へ転勤すれば、人事運用は秋田支社で見る。
- ・任用の基準で支社またぎでの異動は、可能性として否定しない。

（秋田支社へ異動となった場合のエルダー雇用の考え方）

- ・青森が希望となれば盛岡支社管轄のグループ会社は盛岡支社で調整。支社間調整となるが秋田支社社員となった場合は秋田支社で調整。

（青森～盛岡間の EL などの運用が発生した場合について）

- ・青森～盛岡間は、盛岡運輸区で考えている。

他にも情報が欲しい！という方は、「東北三地本」で今すぐ検索♪  
もしくは、右のQRコードから気軽にアクセス☆→→→→→→→→

